

## 本坊酒造株式会社 信州ファクトリー ウイスキー蒸留を再開 ～ 2011年2月より稼働開始 ～

本坊酒造株式会社(鹿児島市南栄、代表取締役社長 本坊 修)は、このたび 2011年2月、信州ファクトリー(長野県上伊那郡宮田村)での、ウイスキー蒸留再開を決定いたしましたのでお知らせいたします。

弊社は、1949年、鹿児島にてウイスキー製造免許を取得。1960年、国産ウイスキー創生の一翼を担った岩井喜一郎氏の設計・指導のもと、“竹鶴レポート”を参考に山梨工場(現、山梨マルスウイナリー)で、ウイスキー蒸留設備を竣工、モルトの蒸留と貯蔵を行い、「マルスウイスキー」のブランド名で販売を開始しています。1985年には、「日本の風土を活かした本物のウイスキー造り」を目指し、更なる理想の地を求め、中央アルプス山麓にある長野県上伊那郡宮田村に、信州工場(現、信州ファクトリー)を竣工(蒸留器など設備を移設)、正統スコッチウイスキーを超えるべく、原点に忠実に、本物のウイスキー造りに情熱を注いでまいりました。2007年には、シングルカスク・ウイスキーが、イギリス・ロンドンで開催される IWSC(International Wine and Spirits Competition)で銀賞を受賞したのをはじめ、国内外で評価をいただき現在に至っております。しかしながら、年間製造数量で約 900KL あった弊社においても、1989年の酒税法等の改正、従価税及び級別制廃止以降、ウイスキー需要が長らく低迷していく中で、1992年を最後に、モルトの蒸留については休止を余儀なくされておりました。

岩井氏設計の蒸留器が稼働して半世紀余り、これまでも国産ウイスキー誕生前まで遡る歴史的系譜と、これら生み出されたモルト原酒を所有している背景から、再稼働させることを検討してまいりましたが、ウイスキー需要が回復傾向にある昨今、その波は弊社にも波及しており、ようやく、その機運が高まり伝統ある蒸留器から、将来にわたって安定したモルト原酒を供給すべく、蒸留再開を決定いたしております。

信州ファクトリーでは、すでに蒸留器をはじめ、ウイスキー設備について点検、整備をはじめており年内中に完了、2011年2月より、ウイスキーモルト原酒の蒸留を再開すべく準備を進めております。2011年2月以降、ウイスキーモルト原酒の蒸留を再開、樽貯蔵を行い、長期にわたり保有するモルト原酒に加えて、将来にわたり安定したモルト原酒を供給する体制を整え、国産ウイスキーの一翼を担うべく、取り組んでまいります。

### ■信州ファクトリー施設概要(主たる設備のみ)

原酒製造設備	麦芽粉碎機(0.5t/h)、糖化機、発酵タンク 7KL 5本  蒸留器: 山梨工場より移設、昭和 35 年、岩井喜一郎氏設計の下に製作 ストレートヘッド初留用 6KL/回 ストレートヘッド再留用 8KL/回
--------	---

### 【本件に関するお問い合わせ先】

本坊酒造株式会社 営業企画推進部 鹿児島市南栄 3 丁目 27 番地  
 (〒891-0122) TEL099-822-7003 FAX 099-210-1215